

の事は働いて益となり損をしたことは一つありません。終戦の翌年復員帰宅。(ルカ15章)の放蕩息子以上の非の身を既に亡き父母の教会は喜んで迎えて下さいました。婚後21年の家内が留守番の間に保育教育を受けた事が示唆となり昭和24年家を開放して幼稚園を始めて今日迄25年1,200余の卒園児とその家庭はその温情を「押し入れ、探り入れ溢るるまでにして」(ルカ6-38)くれます。

内村鑑三、植村正久、塚本虎二の三恩師は既に召されて世を去られ、同信の諸先輩も友も次々と召されて行き、この世に残された者の淋しい日を過ごしておりますが「もはや我、生きるに非ず、キリストわれにありて生きるなり」であります。

油で戦に負けた日本が、油で一儲けしましたが、又その油で試練を受ける事になりました。併し日本人が持ち前の勤労の精神を失わない限り必ず生き残ると信じ、幼い園児に自主自立独行の根性を叩き込む事につとめております。

12月1日横須賀地方総監となられた安永海将は私の機校(舞鶴)教頭時代に卒業の機47期生、恰もクラスの多数は戦死、思えば感慨無量です。この上ともコルネリオ会教友各位の主にあつて御健闘を祈ります。

抽詠

- 丸腰で行ける世なれば日本も何を好みて刀もとうぞ
- 戦争の絶えしことなき地球上日本は日本人で衛の他なし

※コンピュータと信仰 松山 暁賢(島松駐屯地)

本年1月から東京都小平市にある陸上自衛隊業務学校に入校することになり、現在、学校の隣にある小平教会の礼拝にも出席する機会が与えられ感謝いたしております。ある日礼拝の後、この教会の長老である今井兄(防大)及び越中兄(農林省農業検査所コンピュータ主任)それに私の三人で「コンピュータと人間、信仰生活、聖霊の働き等」について討論したことがある。結局、議論が高度化してしまい結論は出なかったが「神と人間の関係」は「人間とコンピュータの関係」によく似ているということにおちついた。

そこで私もコンピュータと人間を比較し、信仰について考えて見たい。

1. コンピュータのからだ

- (1)コンピュータには頭脳があり、ものを記憶し、判断し、計算することができる。
- (2)大きな体があり内蔵等は精密にできており、普通あまり病気はしないが、常に健康管理のためメーカー側に専属の医者がいて時々往診にくる。
- (3)耳目や手があり、いろいろの情報を見たり、聞いたり、書いたりするほか、頭脳に記憶しきれないときはノートやテーブルコーダに記憶することもできる。
- (4)コンピュータはIBMの大型機からミニコンに至るまで周辺機器の組み合わせにより、人間のようにそれぞれの能力は千差万別である。以上の能力は人間の何十倍から何万倍という優秀なものであるが、これらはハードウェアといって五体満足なだけでなんの目的も持たないで日々生活している人間によく似ている。

2. コンピュータの働き

- (1)コンピュータは自分1人では何もすることができない。人間はコンピュータの能力を如何に使ったらよいかということを考えて、仕事の手順を明確にする。これを「システム設計」という。これは非常に難しい問題で、システム設計が完全かどうかは結果を見なければ判らない場合も多い。しかし、根本的には「正しいシステム」と「正しくないシステム」とに大別することができる。
 - (2)システム設計されたもの(システム設計書)にもとづいてコンピュータに仕事をさせるための命令書(「プログラム」という)を書く。このプログラムがシステム設計書通りに正しく働くかどうかを確かめることをデバッグといい、デバッグ作業を終わってようやくコンピュータが働くためのプログラムが完成するわけである。コンピュータはこのプログラムによっていろいろの仕事することになるが、この仕事は人間にとって役に立つものとなる。この場合のシステム設計書は「正しい」ものであり、人間が神なら聖霊みたいなものであろう。
- ところが、システム設計書にも「正しくない」ものが非常に多い。しかも「正しくない」ということが判らないままプログラムが作られてしまう場合もある。この場合たとえプログラムが正しくとも、コンピュータはプログラム通り働くので、そのなした仕事は「常に誤り」であり、当然人間には役に立たないことになる。このときのシステム設計書は例えば人間を神としたら悪霊の仕業と見なされるであろう。

3. 被創造物は創造主に喜ばれる働きをせよ。

- (1)人間とコンピュータの違いは、いろいろあるが、特に、人間は神の被創造物であるのに対して、コンピュータは人間の被創造物である。
- (2)人間は神の御設計書にもとづいて聖霊により、生かされているのに対し、コンピュータは人間の計画にもとづいてシステム設計書により生きている、といえよう。そこで人間が神であり、コンピュータが人間だとした場合、前項で述べたごとく、正しいシステム設計書は聖霊みたいなものであり、それにもとづくコンピュータの働きは製作主である人間に喜ばれるものである。

神は人間が神のために生きるよう創造されたにも拘わらず、正しくないシステム設計書を正しいと信じこんで生きている人間も多く、いや非常に多いことである。この場合のコンピュータの働きというものは、創造主のためにならないものであり、創造主は喜ばないことになる。

4. 信仰に生きること

私たちの信仰生活はコンピュータのように単純なものではないが、創造主と被創造物の関係は真理である。創造主である神に喜ばれる生き方が「信仰に生きる」ことであることを信じ、いままでに何回神に喜ばれたかを数える愚かな僕であります。小平教会で、コルネリオ会の先輩である諸先生にお会いする度に、自衛官として、コルネリオのように生きることが神に喜ばれることであり「信仰に生きる」ことであるということをお教えされている。

※通 信

○綱島敏光兄(百里基地)より

聖名讚美

早速に御返事お知らせ下さいましたこと感謝いたしております。

コルネリオ会の目ざすところを知ることができました。国際的なものでもあり、又キリストを救い主と信じる者はだれでもとあり、まったくキリストを中心とした交わりであることを知り、たのしくもうれしくも思いました。外国では将校ばかりと聞き、少々気がひけますが、どうか会員に加えて下さいますようお願い申し上げます。

お手紙にありましたように、真の防衛のあり方は、主にあって正しい方法でなければ、達成されるものではないと、私も信じます。神を知り義に忠実でなければならぬと思えますから、キリスト・イエスに従って一人一人の隊員が正しく立つ者とならなければならぬと思えます。

そのためには、長い時間を要しますが、キリスト・イエスの真の愛に気付き、寛容と忍耐と希望とそして、すべての物に、事に常に感謝の気持ちを持ちつづけられる人に、隊の内外を問わず、一人でも多くの人々に伝道していかなければならぬと思えます。

神により真に生かされたものと、すべての人が気付き、信じた時に、真の平和が保たれると信じます。

まず私は聖書に明るくなる努力をしています。生活から聖書に聞き、聖書の内容を知り生活に生かして行く生き方をなして行きたいと、毎日努力しております。

現在水戸バプテスト教会の会員で、聖日はほとんどの時間教会で過ごしています。今後、機会あるごとに手紙致したいと思っております。「キリスト・イエスの良き兵卒としてわたくしと苦しみを共にしてほしい」 (テモテへの第2の手紙第2章3節)

コルネリオ会が主にあって正しい活動の場となり、多くの隊員を募ることが(伝道)できますように。

主、イエス・キリストの名によりお祈り申し上げます。

○ 下桑谷浩兄(中央病院)より

輝かしい新春を心からお祝い申し上げます。

早速でございますが、小生コルネリオ会入会に際しまして、又、機関誌の発送まで多大のご配慮をいただき、ご厚情の程伏してお礼申し上げます。お聞きいたしますと、コルネリオ会の事務を先生お一人で労されておるとのこと誠に頭の下がる思いです。近くにあれば手助けの一つもできるのにと一人申し訳なくおもっています。

実は申し込みばかりいそいで会費を忘れておりました。同封いたしましたので、ご受納いただければ幸いです。

それから年一度開かれる会合はいつごろでしょうか。その節はお知らせいただければ幸いです。よろしく願いいたします。

まずは用件のみにて失礼いたします。

貴会の上に併せてお働きの上に主の恵みますます豊かならんことをお祈り申し上げます。